

～ 令和5年度 内部評価結果(指標の推移一覧) ～

次ページ以降の、各推進項目にまとめた内部評価結果におけるアウトプット・アウトカム指標の前年度比に対する増減に関する個数を一覧で確認できるよう整理しました。

※アウトプット・初期アウトカムの事業ごとの評価結果の指標を 「◎」「→」「▲」で表しています。10%以上の上昇は「◎」、10%未満の上昇及び下降は「→」、10%以上の下降は「▲」で表記しました。

推進項目1「広報・情報提供」 詳細は2ページ		アウトプット				初期アウトカム			
		◎	→	▲	◎→▲	◎	→	▲	◎→▲
個別 施策	①SNS等を活用した学習情報の共有・発信	5	6	0	5	4	4	2	2
	②ライフスタイルの変化に対応した学習の共有	0	5	1	-1	3	2	0	3
計		5	11	1	4	7	6	2	5

推進項目2「相談」 詳細は3ページ		◎	→	▲	◎→▲	◎	→	▲	◎→▲
		◎	→	▲	◎→▲	◎	→	▲	◎→▲
個別 施策	③生活課題等の相談・支援体制の強化	1	3	0	1	1	3	1	0
	④相談の場の充実	0	3	0	0	2	1	0	2
計		1	6	0	1	3	4	1	2

推進項目3「居場所・場づくり」 詳細は4ページ		◎	→	▲	◎→▲	◎	→	▲	◎→▲
		◎	→	▲	◎→▲	◎	→	▲	◎→▲
個別 施策	⑤居場所のネットワーク化	1	2	0	1	1	2	0	1
	⑥場の提供（ハード面のサポート）	0	10	0	0	5	2	0	5
計		1	12	0	1	6	4	0	6

推進項目4「地域活動・地域づくり」 詳細は5ページ		◎	→	▲	◎→▲	◎	→	▲	◎→▲
		◎	→	▲	◎→▲	◎	→	▲	◎→▲
個別 施策	⑦地域団体との連携	2	4	0	2	5	4	0	5
	⑧地域活動の担い手育成	5	3	2	3	6	3	1	5
計		7	7	2	5	11	7	1	10

推進項目5「学習の機会づくり」 詳細は6ページ		◎	→	▲	◎→▲	◎	→	▲	◎→▲
		◎	→	▲	◎→▲	◎	→	▲	◎→▲
個別 施策	⑨市民企画（提案）型講座・事業の拡充	1	2	1	0	3	0	2	1
	⑩多世代交流の場づくりの推進	1	11	0	1	8	2	0	8
計		2	13	1	1	11	2	2	9

推進項目6「ボランティア・市民活動」 詳細は7ページ		◎	→	▲	◎→▲	◎	→	▲	◎→▲
		◎	→	▲	◎→▲	◎	→	▲	◎→▲
個別 施策	⑪ボランティアセンターの充実	0	1	0	0	1	0	0	1
	⑫市民活動やボランティア活動に気軽に参加できる仕組みづくり	0	4	1	-1	5	3	1	4
計		0	5	1	-1	6	3	1	5

推進項目7「大学・社会教育施設との連携」 詳細は8ページ		アウトプット				初期アウトカム			
		◎	→	▲	◎→▲	◎	→	▲	◎→▲
個別 施策	⑬市内大学とのネットワークの構築	2	0	0	2	1	0	0	1
	⑭社会教育施設と大学機関の連携	1	0	0	1	1	0	0	1
計		3	0	0	3	2	0	0	2

推進項目8「誰もが学べる環境づくり」 詳細は9ページ		◎	→	▲	◎→▲	◎	→	▲	◎→▲
		◎	→	▲	◎→▲	◎	→	▲	◎→▲
個別 施策	⑮オンライン・通信教育での学習サポート	1	2	0	1	0	3	1	-1
	⑯シチズンシップ学習の拡充	1	3	0	1	3	0	1	2
	⑰様々な状況に応じた学習・生活のサポート	0	4	2	-2	4	1	1	3
計		2	9	2	0	7	4	3	4

推進項目9「市民協働の機会づくり」 詳細は10ページ		◎	→	▲	◎→▲	◎	→	▲	◎→▲
		◎	→	▲	◎→▲	◎	→	▲	◎→▲
個別 施策	⑱市民・民間・行政が一体となった事業等の実施	3	4	0	3	5	1	1	4
	⑲各種イベント等の企画・運営への市民参画の推進	1	4	0	1	2	4	0	2
計		4	8	0	4	7	5	1	6

推進項目10「連携・協働による子どもの成長への支援」 詳細は11ページ		◎	→	▲	◎→▲	◎	→	▲	◎→▲
		◎	→	▲	◎→▲	◎	→	▲	◎→▲
個別 施策	⑳子育てに関わる者へのサポートの充実	2	5	0	2	2	4	0	2
	㉑学校と地域との連携強化	1	5	0	1	3	2	0	3
計		3	10	0	3	5	6	0	5

推進項目11「持続可能で元気な地域づくり」 詳細は12ページ		◎	→	▲	◎→▲	◎	→	▲	◎→▲
		◎	→	▲	◎→▲	◎	→	▲	◎→▲
個別 施策	㉒健康まちづくりの推進	0	2	1	-1	0	2	1	-1
	㉓企業連携による学習・教育の推進	1	3	0	1	2	1	1	1
	㉔SDGsの取り組みの拡充	2	1	0	2	1	1	1	0
計		3	6	1	2	3	4	3	0

～ 令和5年度 内部評価結果～

推進項目1「広報・情報提供」

多様な興味・関心に応じた生涯学習活動についての情報を、多様な媒体を通じて提供します。また、各種団体の活動について、情報誌やインターネットなどを通じて紹介し、活動の活性化をサポートします。

10%以上の上昇は「◎」、10%未満の上昇及び下降は「→」、10%以上の下降は「▲」で表記

↑:上がる、→:現状維持、↓:下がる

個別施策① SNS等を活用した学習情報の共有・発信

アクティビティ（事業概要） 関連事業	アウトプット			初期アウトカム			実績と考察	今後の 方向性	今後の方向性と課題について
	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗			
①多摩市公式Twitter	集計不可／集計不可	発信数	-	6,261／5,651 集計不可／集計不可	フォロワー数 いいね！	◎ -	フォロワー数、いいね数共に、過去のベースに近い伸び率であり、特筆すべきところはない。	→	SNSを活用した情報発信の推進には引き続き取り組んでいくため、現状維持とした。SNSの活用に偏りがあることは課題として認識している。
①多摩市公式Instagram	85／62	発信数	◎	1,794／1,552 5,483／5,871	フォロワー数 いいね！	◎ →			
②市民活動情報検索サイト	365／364 21,373／17,371	登録団体数 閲覧者数	→ ◎	指標なし	-	-	新型コロナウイルス感染症の影響により停滞していた市民活動に対し、市内活動への問い合わせが増加する等、活動意欲の高まりがあり、閲覧数は2割ほど増加した。	→	昨年度に引き続き地域デビュー手引書との統合（出力機能の追加）に向けた、データ整理等を進める。
③公民館通信	12,000／12,000	発行部数	→	12,000／12,000	受取数	→	年度を通して発行し、公共施設や関係機関等に配布することができたが、コロナの影響もあり発行部数が年々減少している。	→	今後も新たな配布先が加わったとしても大幅な発行部数増には結びつかないと考えられること、また発行回数についても検討しているところである。
④地域デビュー手引書	351／351	登録団体数	→	指標なし	-	-	市民活動情報検索サイトとの統合に向けて、委託業者との調整・検討を行った。	→	昨年度に引き続き市民活動情報検索サイトとの統合（出力機能の追加）に向けた、データ整理等を進める。
⑤政策情報誌	79,000／79,000	発行部数	→	70,810／74,070	受取数	→	市の重要施策である本庁舎の建替えをはじめ、聖蹟桜ヶ丘かわまちづくりや中央公園、中央図書館の近況や改修状況について、市内全戸配布により効果的にPRできた。	↗	市の公共施設における取組を継続的、効果的に市民に周知するため、令和6年度は年2回発行する。
⑥たま広報	79,746／79,450	発行部数	→	77,120／76,747	受取数	→	世帯数の増加に伴い、発行部数が増加した。	→	全戸配布を継続する予定であるため、現状維持とした。社会変化に合わせて、情報発信の手法を検討する必要がある。
⑦YouTube多摩市公式チャンネル	161／118	投稿動画数	◎	135,356／227,925 4,324／3,934	視聴回数 チャンネル登録者数	▲ →	職員向けの研修の動画などの割合が多くなっており、広く生活者に見てもらう性質の動画の公開が少ないことが、視聴回数の減少につながっているのではと予想している。	→	引き続き、動画を活用した情報発信の推進に取り組むため、現状維持とした。課題として、投稿する動画のクオリティの差や、編集の経験と技術不足により制作に必要以上に時間がかかっていることが挙げられる。
⑧農産物応援サイト「agri agri」	118／128	情報発信数	→	78,472／49,787	閲覧数	◎	閲覧数は令和4年度に減少したものの、令和5年度はブログやSNS等の活用によって大幅な増加に転じた。	↗	今後はさらに投稿数や内容を向上していけるよう、サイトの運営業者に働きかけたい。
⑨多摩市LINE公式アカウント	81,962／26,359	情報発信数	◎	19,473／16,893	友だち登録者数	◎	健康推進課で実施していた「にゃんとも子育てLINE」と「公式LINE」を統合したことにより、子育てに関する情報の配信数が増加した。	→	SNSによる情報発信は、今後も市の情報を伝えるためにキーポイントとなることから、積極的な活用を図っていく。
⑩こみ分別アプリ「さんあへる」	13／11	情報発信数	◎	3,517／4,051	ダウンロード数	▲	台風や降雪といった気候に伴うごみ・資源の出し方や新制度についての通知を多く行った。しかし、情報発信の数が多くなり頻繁に通知されるようになるなど通知をオフにされるなど情報遮断措置をされる恐れもあるため、アプリ内で発信する情報は精査しながら行っている。ダウンロード数は減少傾向にある。	↗	情報内容は精査をしながら、有効な情報発信の手段として積極的に活用していく。また、ダウンロード数の増加に向けた取組も引き続き行う。

個別施策② ライフスタイルの変化に対応した学習の情報提供

アクティビティ（事業概要） 関連事業	アウトプット			初期アウトカム			実績と考察	今後の 方向性	今後の方向性と課題について
	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗			
①地域デビュー手引書	351／351	登録団体数	→	指標なし	-	-	市民活動情報検索サイトとの統合に向けて、委託業者との調整・検討を行った。	→	昨年度に引き続き市民活動情報検索サイトとの統合（出力機能の追加）に向けた、データ整理等を進める。
②政策情報誌	79,000／79,000	発行部数	→	70,810／74,070	受取数	→	市の重要施策である本庁舎の建替えをはじめ、聖蹟桜ヶ丘かわまちづくりや中央公園、中央図書館の近況や改修状況について、市内全戸配布により効果的にPRできた。	↗	市の公共施設における取組を継続的、効果的に市民に周知するため、令和6年度は年2回発行する。
③ライフウェルネス教材	0／0	作成部数	→	4／0	貸出数	◎	コロナ禍の行動制限が解除され、本来の使い方でも活用してもらえつつある。	↗	ライフウェルネス検定について市民からもお問い合わせがあることから、検定の今後の活用方法と併せて、ライフウェルネス教材を活用し、健康に関する普及啓発を引き続き行う。
④健康Spot	6／6	配置数	→	5,920／4,570	利用数	◎	コロナ禍の行動制限が解除され、利用者数が回復してきた。	→	利用者アンケートを行い、課題や要望などを把握し、今後の健康Spotのより良い在り方や、庁舎に設置している健康Spotにおいては庁舎建て替え時の設置スペース等を検討していく。
⑤for 40	1,889／1,891	送付部数	→	83.0／90.9	※	→	アンケート回答から、おおむね狙い通りの意識変化を生んでいるものと考ええる。	→	情報誌の送付に加えて当課で実施予定のライフウェルネスワークショップとfor40を関連付けるなど、市民の健康的な行動への動機づけを引き続き行う。
⑥バル多摩エコール （当初 バルテノン多摩市民舞台芸術学校）	4／5	講座数	▲	819／451	参加者数	◎	イベントプログラムはコロナ禍で休止していたものもあり、久しぶりの実施に多くの方の参加があった。	→	市民が文化芸術を体験し、又は創造する機会の創出に関する取り組みは基盤事業のひとつとして位置付けているが、他の事業とのテーマや内容、実施時期等のバランスを取りながら実施する必要がある。

※読者アンケート回答者のうち、興味を持った記事の内容について、実際に生活を見直したり行動しようと思う、ややそう思うと回答した割合

※指標の推移	◎	→	▲	◎→▲		◎	→	▲	◎→▲
アウトプット	5	11	1	4	初期アウトカム	7	6	2	5

推進項目1 指標の推移			
アウトプット	↑	初期アウトカム	↑

◎→▲>0の場合は「↑」
◎→▲=0の場合は「→」
◎→▲<0の場合は「↓」

～ 令和5年度 内部評価結果 ～

推進項目2「相談」

地域での問題や自身の悩み事などを気軽に相談でき、生涯学習活動への第一歩をふみだせるサポートを、関係団体等と連携しながら行います。

10%以上の上昇は「◎」、10%未満の上昇及び下降は「→」、10%以上の下降は「▲」で表記
▲:上がる、→:現状維持、↓:下がる

個別施策③ 生活課題等の相談・支援体制の強化

アクティビティ（事業概要） 関連事業	アウトプット			初期アウトカム			実績と考察	今後の 方向性	今後の方向性と課題について
	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗			
①多摩市版地域包括ケアシステム	指標なし	-	-	2／1	※	◎	代表者会議は7月に1回目を開催し、昨年度に引き続き重層的支援体制整備事業実施方針の検討を行った。2月に2回目を開催し重層的支援体制整備事業実施方針策定の報告、その他には各会議の開催状況の報告をした。	↗	引き続き、多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会設置要綱に沿って、エリア別情報交換会、随時の事例検討会を行う。そこで得られた各地域の情報課題を共有する代表者会議を年1回程度行い、地域の課題について取り組んでいく。また、事例の発生に応じて事例検討会の実施を行う。
②TAMA女性センター相談事業	3／3	事業数 （相談種類）	→	465／449	相談数	→	3つの相談事業において、相談者に寄り添い、関係機関と連携しながらエンパワメントを行うことができた。 （なんでも386件、法律相談49件、LGBT30件）	→	引き続き、関係機関と連携しながら相談事業を実施する。また、相談場所を必要としている人が利用できるよう、様々な媒体を通じてTAMA女性センターの相談窓口の周知を行う。
③人権・身の上相談	138／132	事業数 （相談件数）	→	28／34	相談件数	▲	コロナ禍と比較すると相談の利用率は減少している。	→	今後も法務省東京法務局及び庁内関係所管と連携し、相談事業を実施していく。
④地域包括支援センター	6／6	施設数	→	42,427／43,378	相談数	→	相談件数の実績の推移はほぼ横ばいとなっているが、相談の内容は複雑化している。	→	出張相談会の実施を含め、引き期き高齢者の総合相談窓口として、市民が相談しやすい、きめ細かい対応ができる窓口のあり方を検討していく。
⑤しごと・くらしサポートステーション （生活困窮者自立相談）	5／4	事業数 （相談枠数）	◎	248／253	相談数	→	コロナ禍による相談件数は落ち着き、以前の件数に戻りつつある。令和5年度は日中を安心して過ごせる「居場所」のスペースを設置し、ひきこもり相談に対する人員体制を強化した。	↗	生活に困りごとを抱えた方への就労や家計に関する相談を受け、しごと・くらしサポートステーションの相談支援員が生活の自立に向けた支援を行う。また、各関係機関と連携を図り、必要に応じて適切に相談者につないでいく。

※会議開催数（多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会）

個別施策④ 相談の場の充実

アクティビティ（事業概要） 関連事業	アウトプット			初期アウトカム			実績と考察	今後の 方向性	今後の方向性と課題について
	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗			
①福祉なんでも相談	9／9	実施箇所数	→	90／62	相談数	◎	実施に当たっては、地域包括支援センターと連携し開催している。また、なんでも相談の中で、脳トレやミニ講座を開催し、参加者の中から潜在的ニーズを引き出し、相談に結び付けている。	→	継続して、地域住民にとって身近な地域で実施していく。重層の参加支援事業の受託に伴い、「ひきこもり」などの方など生きづらさを抱える方々の相談の場としても積極的にPRし、重層参加支援事業担当職員と連携し実施していく。障がい関係の相談については、地域のニーズの把握に務めるとともに、専門機関等とも連携していく。
②ふれあいいきいきサロン	110／106	実施箇所数	→	35,354／32,283	利用者数	→	担い手や参加者の高齢化等により、解散、活動中止するサロンの相談が増えている。一方、新規サロンは、ニュータウンエリアで比較的多くが立ち上がった。	→	サロンが解散するなど、地域の通いの場が無くなってしまった地域については、ニーズなどを確認し、包括支援センター等と連携し、新たな通いの場の立ち上げ支援を行う。
③多摩市立市民活動・交流センター	310／325	登録団体数	→	127,320／113,758	利用者数	◎	登録団体数は集計方法の変更により微減となっている。利用者は施設の認知度の増加、利用率の増加に伴い増えている。また、指定管理者による自主事業の実施による参加者の増加も貢献している。	→	既に登録団体数と利用者数は指定管理者の目標数を達成している。夜間帯など施設利用の少ない時間はあるが、稼働率の低い時間帯の利用の向上の工夫や事業を通じた団体同士のつながり等が求められる。

※指標の推移	◎	→	▲	◎→▲		◎	→	▲	◎→▲
アウトプット	1	6	0	1	初期アウトカム	3	4	1	2

推進項目2 指標の推移			
アウトプット	↑	初期アウトカム	↑

◎→▲>0の場合は「↑」
◎→▲=0の場合は「→」
◎→▲<0の場合は「↓」

推進項目3「居場所・場づくり」

生涯学習活動を行うための公的施設の充実だけでなく、情報通信技術をはじめ、市内の多様な資源を活用しながら、誰もが気軽に集える居場所や場づくりを進めます。

10%以上の上昇は「◎」、10%未満の上昇及び下降は「→」、10%以上の下降は「▲」で表記

↑:上がる、→:現状維持、↓:下がる

個別施策⑤ 居場所のネットワーク化

アクティビティ（事業概要） 関連事業	アウトプット			初期アウトカム			実績と考察	今後の 方向性	今後の方向性と課題について
	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗			
①地域子育て支援拠点だより 「わくわく通信」	17／17	配布場所数	→	指標なし	-	-	2か月に1回の定期発行で情報発信をしている。配架している市内の公共施設では、全ての地域子育て支援拠点の情報 が手に取れるようになっているほか、公式HPでの掲載も行っている。	→	引き続き、配架している市内公共施設では、全ての地域子育て支援拠点の情報 を手に取れるよう情報発信に取り組んでいく。
②多摩市通いの場マップ	3,500／0	発行部数	◎	指標なし	-	-	前回は令和2年の3月発行であったが、令和5年の10月に情報を更新して発行した。	その他	令和5年度で生活支援体制整備事業の第2層の受託終了のため、社会福祉協議会での作成は今年度で終了となる。
③多摩市版地域包括ケアシステム	指標なし	-	-	2／1	※	◎	代表者会議は7月に1回目を開催し、昨年度に引き続き重層的支援体制整備事業実施方針の検討を行った。2月に2回目を開催し重層的支援体制整備事業実施方針策定の報告、その他には各会議の開催状況の報告をした。アウトカムの2回は代表者会議の開催回数である。	↗	引き続き、多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会設置要綱に沿って、エリア別情報交換会、随時の事例検討会を行う。そこで得られた各地域の情報課題を共有する代表者会議を年1回程度行い、地域の課題について取り組んでいく。また、事例の発生に応じて事例検討会の実施を行う。
④ふれあいいきいきサロン	110／106	実施箇所数	→	35,354／32,283	利用者数	→	担い手や参加者の高齢化等により、解散、活動中止するサロンの相談が増えている。一方、新規サロンは、ニュータウンエリアで比較的多くが立ち上がった。	→	サロンが解散するなど、地域の通いの場が無くなってしまった地域については、ニーズなどを確認し、包括支援センター等と連携し、新たな通いの場の立ち上げ支援を行う。
⑤子ども食堂・誰でも食堂の紹介	指標なし	-	-	2,931／2,984	閲覧数	→	たま広報や図書館での企画展示等において子ども・誰でも食堂について周知を行ったことから、前年同水準の閲覧数を維持できたものと思われる。	↗	物価高騰などの社会環境の変化に伴い、子ども食堂・誰でも食堂のニーズは上がっていくことが想定される。

※会議開催数(多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会)

個別施策⑥ 場の提供(ハード面のサポート)

アクティビティ（事業概要） 関連事業	アウトプット			初期アウトカム			実績と考察	今後の 方向性	今後の方向性と課題について
	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗			
①コミュニティセンター・コミュニティ会館	11／11 3,698／3,393	施設数 開館日数 (10館合計)	→ →	310,786／277,378 44,011／23,008	利用者数 事業参加者数	◎ ◎	徐々にサークル活動や地域の活動でのコミュニティルームの利用は、コロナ前の状況に戻りつつあり、コミュニティセンター及びコミュニティ会館が持つ市民の居場所としての機能を回復しつつある。	↗	新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類になり、今後はコロナ前の状態を目標とし、運営協議会と協力の上でコミュニティセンターの利用者数及び事業参加数が増加する見込みである。
②バルテノン多摩	344／343	開館日数	→	399,708／418,203	来館者数	→	事業面については、R4年度はリニューアルオープン年として、数多くの事業に取り組んだが、R5年度は通常運営年度として事業の実施数が減少しているため、相対的に人数が減少している。	↗	今後は稼働率が低い施設や稼働が低い時間帯を中心に、利用方法の具体的な利用例などをホームページ等で公開する。利用イメージがしやすいことで利用促進につなげる。また、市民活動団体やプロモーターなどの営業を行うなど、貸館稼働率及び貸館利用による来館人数を増やす取り組みを行う。
③公民館（永山）	11,121／11,121 337／337	施設数（コマ数） 開館日数	→ →	77,137／74,001	来館者数	→	「つどう」「まなぶ」「つながる」きっかけの場として、地域の拠点施設として多岐にわたる市民活動を支援するとともに、交流の促進、情報の発信、地域課題の解決にむけた講座や地域振興に寄与する催しなど、さまざまな事業を実施することができた。	→	新型コロナウイルス感染症の影響による利用者の減少は回復傾向にあるものの、以前の利用実績にまでは戻っていない状況である。様々な年齢層に来館いただけるよう、利用しやすい施設として、学びや活動の場を提供していくが、来館者数の増加に結び付けることは難しいと感じている。
④公民館（関戸）	11,063／10,121 339／338	施設数（コマ数） 開館日数	→ →	65,894／57,456	来館者数	◎	中央図書館の開館に伴い、祝日開館や開館時間を見直し利用できる機会を増やすとともに、中央図書館では市民がより充実した学びができるように資料や設備を整えたことにより、これまで図書館を利用していなかった市民の利用が増えた。	→	中央図書館の開館により中央図書館の利用が旧本館に比べ大きく増加したが、他の6つの図書館、行政資料室については、前年度に比べ変動はなく、新たに利用登録した市民が継続して図書館を利用するようにしていく。
⑤図書館	8／8 360／355	施設数 開館日数	→ →	53,833／42,183	登録者数	◎	登録団体数は集計方法の変更により微減となっている。利用者数は施設の認知度の増加、利用率の増加に伴い増えている。また、指定管理者による自主事業の実施による参加者の増加も貢献している。	→	既に登録団体数と利用者数は指定管理者の目標数を達成している。夜間帯など施設利用の少ない時間はあるが、利用希望の重なる時間帯は既に抽選倍率は高く、大幅な利用者増加は厳しい状況である。
⑥多摩市立市民活動・交流センター	310／325	登録団体数	→	127,320／113,758	来館者数 (利用者数)	◎		→	

※指標の推移	◎	→	▲	◎→▲		◎	→	▲	◎→▲
アウトプット	1	12	0	1	初期アウトカム	6	4	0	6

推進項目3 指標の推移			
アウトプット	↑	初期アウトカム	↑

◎→▲>0の場合は「↑」
◎→▲=0の場合は「→」
◎→▲<0の場合は「↓」

～ 令和5年度 内部評価結果 ～

推進項目4「地域活動・地域づくり」

地域で活動する団体と連携し、地域での活動をしたい人と、一緒に活動をして欲しい人とをつなぐ仕組みを充実します。

10%以上の上昇は「◎」、10%未満の上昇及び下降は「→」、10%以上の下降は「▲」で表記

↑:上がる、→:現状維持、↓:下がる

個別施策⑦ 地域団体との連携

アクティビティ（事業概要） 関連事業	アウトプット			初期アウトカム			実績と考察	今後の方向性	今後の方向性と課題について
	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗			
①地域協創 （当初（仮称）地域委員会構想）	5/0	事業数	◎	199/0	参加者数	◎	実績としては各地区でのエリアミーティングの開催回数と参加者数を計上している。エリアミーティングをきっかけに多様な地域の取組みが広がった。	↗	引き続き各エリアにおいて議論と実践を繰り返し、具体的な協創のしくみ・しかけの本格運用に取り組みとともに、協創指針等の各種ルールの見直しや周知啓発に取り組む。
②たすけあい有償活動	169/178	登録者数	→	762/667	利用者数	◎	利用者に関して、高齢者だけでなく、障害福祉課相談担当からの紹介で、精神障害・発達障害の方の中で公的サービスを利用していない多様な方が利用するようになり、関係機関との連携を密に在宅生活を支援する一助となってきた。	その他	活動者である協力員の登録が少ない地域があるため、登録説明会に関して小地域での広報を行っていく。利用料の改正など事業内容を検討していく。多様化するニーズについて、多機関で連携していく。
③地域ふれあいフォーラム	1/1	事業数	→	2,262/2,000	参加者数	◎	館全体の回遊性を高めるためにクイズラリーを新たに取り入れたことにより、来場者のみならず、参加団体同士で相互に成果発表を見るきっかけにつながった。日頃より公民館に関わっている団体同士が新たなつながりを創出する機会となった。	→	事業全体の方向性について、試行を重ねながら、公民館事業としての独自性を取り入れられるよう、内容の工夫改善を図っていく。
④地域福祉推進委員会	10/10	実施箇所数	→	52/52 1,004/981 1,368/1,416	開催数 参加団体数 参加者数	→ → →	コロナウィルス感染症が5類に移行し、参加団体も徐々に多くなってきた。10年以上継続した活動ゆえ、世話人の高齢化により、各委員会では世話人や参加者の世代交代が課題である。	→	引き続き、若い世代や専門機関等の参加を鑑み、感染症等の状況も踏まえ、オンライン対応ができるように常に準備態勢を作っておく。また、SNSによる情報発信や若い世代に向けた事業展開など、若い世代の取り込みにむけて力を入れていく。
⑤自治会・管理組合活動の支援 （多摩市自治連合会）	11/9	事業数	◎	658/650	参加団体数	→	新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、その影響がほとんど見られなくなってきたことから、中止してきた事業についても、徐々に実施することが出来、ここ数年の中では参加団体も多くなってきた。	→	令和5年度の試行事業（サロン事業）を経て、自治会・管理組合の合同部会における先進事例の紹介を受け、令和6年度に電子回覧板など自治会・管理組合運営に資するアプリの実証実験に取り組む予定である。
⑥多摩市立市民活動・交流センター	310/325	登録団体数	→	127,320/113,758	参加者数	◎	登録団体数は集計方法の変更により微減となっている。利用者数は施設の認知度の増加、利用率の増加に伴い増えている。また、指定管理者による自主事業の実施による参加者の増加も貢献している。	→	登録する団体等で構成する懇談会、連絡協議会による日々の活動の報告や、課題等も含めた情報交換を行っている。団体間の交流がさらに深まるきっかけ等を模索していく。
⑦多摩市版地域包括ケアシステム	指標なし	-	-	2/1	※	◎	代表者会議は7月に1回を開催し、昨年度に引き続き重層的な支援体制整備事業実施方針の検討を行った。2月に2回を開催し重層的な支援体制整備事業実施方針策定の報告、その他には各会議の開催状況の報告をした。アウトカムの2回は代表者会議の開催回数である。	↗	引き続き、多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会設置要綱に沿って、エリア別情報交換会、随時の事例検討会を行う。そこで得られた各地域の情報課題を共有する代表者会議を年1回程度行い、地域の課題について取り組んでいく。また、事例の発生に応じて事例検討会の実施を行う。

※会議開催数（多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会）

個別施策⑧ 地域活動の担い手育成

アクティビティ（事業概要） 関連事業	アウトプット			初期アウトカム			実績と考察	今後の方向性	今後の方向性と課題について
	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗			
①わがまち学習講座	1/1	講座数	→	85/54	参加者数	◎	企画課、公民館、文化・生涯学習推進課の3課で連携し、まちづくりシミュレーションゲームを市民と一緒に作りながら、まちの課題や地域の問題点について考える講座を開催することができた。	→	今後も企画課、公民館、文化・生涯学習推進課の3課で連携しながら、地域の課題や各課が抱える問題に取り組み、市民自らが地域に興味を持ち、地域の「新たな担い手」に繋がるような講座を展開していく。
②地域課題講座	2/3	講座数	▲	57/61	参加者数	→	市内のコミュニティセンター2館と共催による事業を各1回ずつ実施した。年明けの災害や世界情勢など暗いニュースが多い中、気持ちのふさぎをまいよう、笑いヨガを組み合わせた高齢者を対象とした講座を実施し、参加者間の交流や興味関心に応じた学習機会の提供につながった。	→	各コミュニティセンターがそれぞれの地域特性に合わせた事業を企画、制作できるようになるための支援を、今後も引き続き各館と連携して進めていく。
③ヘルプゼミ	3/2	講座数	◎	210/52	参加者数	◎	学びが実践的な地域活動につながるよう「聞き書きボランティア入門講座」を開催し、昨年の講座終了後に発定したアフターグループも参加した。	→	参加者同士がともに学びあい「自分事として捉える」「地域課題として意識する」など、人材、学習意欲を掘り起こすきっかけとなるような新たな視点で講座を開催していく。
④地域協創 （当初（仮称）地域委員会構想）	5/0	事業数	◎	199/0	参加者数	◎	実績としては各地区でのエリアミーティングの開催回数と参加者数を計上している。エリアミーティングをきっかけに多様な地域の取組みが広がった。	↗	引き続き各エリアにおいて議論と実践を繰り返し、具体的な協創のしくみ・しかけの本格運用に取り組みとともに、協創指針等の各種ルールの見直しや周知啓発に取り組む。
⑤健康まちづくりシンポジウム	2/1	開催回数	◎	132/72	参加者数	◎	7月には、もしもの時にどのような医療やケアを望むのか前もって考え、親しい人たちに共有しておくことACP（アドバンス・ケア・プランニング）についてのシンポジウムを開催した。12月には、人権週間に合わせて、平和・人権課及び障害福祉課とともに多様性や障害者差別解消理解をテーマとしたパネルディスカッションとワークショップを開催した。それぞれ多くの方に参加いただいた。	→	引き続き、時宜に合ったテーマ選定を行い、市民の様々な興味関心を取り口として健康まちづくりへの参画を促すシンポジウムを開催していく。
⑥公園・道路のアダプト制度	127/121	事業数	→	3,028/2,955	参加者数	→	公園、道路合わせて7団体が新規加入しており、HPやたま広報で効果的に制度をPRできた。	→	毎年制度に加入する団体は増加しているため、引き続き制度の普及・啓発を促進していく。
⑦グリーンボランティア活動	14/14	事業数	→	2,972/3,095	参加者数	→	活動に大きな変化は見られない。新たな団体が増えそうな傾向にあることは好ましい状況といえる。一方高齢化が確実に進行しているため、世代交代とまていかなないものの、継続性という面で人材の確保に注力していくことが必要。	→	今後も継続していく予定だが、GLC（多摩市立グリーンライセンタ）の運営体制によっては、見直しがかかることもある。
⑧市民企画講座	9/11	講座数	▲	351/678	参加者数	▲	趣味を通しての生きがいづくり、ボランティア活動に繋がる事業、障がい者理解に関する講座など多岐にわたり行われた。	→	今後も市民団体への支援を行いながら、市民への多様な分野の学びの提供を行っていく。
⑨地域貢献講座	1/0	講座数	◎	8/0	参加者数	◎	令和4年度のわがまち学習講座の派生企画として、3名の高校生と協働して実施した。高校生たちが、企画から運営まで主体的に取り組む経験を提供できたと考えている。	→	実施に際しては、きっかけづくりから担い手としての活動に至るまでには複数年かかることも踏まえて、継続的に活動を支援する方法について検討していく必要がある。
⑩多摩市気候市民会議	1/0	講座数	◎	45/0	参加者数	◎	「脱炭素」をテーマに、私たち一人ひとりが当事者として捉え、何をすべきか、何ができるか、そして地域としてできること、そのために行政や民間事業者はどのような支援をすべきかなどについて話し合うための場として開催しました。	→	あらゆる人に気候変動問題の当事者としての「気づき」や「行動変容」を広げていけるよう、今後も実施していく。

※指標の推移

	◎	→	▲	◎→▲		◎	→	▲	◎→▲
アウトプット	7	7	2	5	初期アウトカム	11	7	1	10

推進項目4 指標の推移

アウトプット	↑	初期アウトカム	↑
--------	---	---------	---

◎→▲>0の場合は「↑」
◎→▲=0の場合は「→」
◎→▲<0の場合は「↓」

推進項目5「学習の機会づくり」
地域の様々な活動や人材等と連携し、地域の活動や多世代と関わり、学べる機会づくりを進めます。

10%以上の上昇は「◎」、10%未満の上昇及び下降は「→」、10%以上の下降は「▲」で表記

↑:上がる、→:現状維持、↓:下がる

個別施策⑨ 市民企画(提案)型講座・事業の拡充							
アクティビティ(事業概要)	アウトプット			初期アウトカム			実績と考察
	関連事業	【令和5年度/令和4年度】	単位	進捗	【令和5年度/令和4年度】	単位	
①出前講座		1/1	講座数	→	18/7	参加者数	◎
②市民企画講座		9/11	講座数	▲	351/678	参加者数	▲
③出前講座・講師派遣制度		6/3	講座数	◎	188/125	参加者数	◎
④バルテノン多摩市民学芸員		6/6	市民学芸員養成講座(回数)	→	9/14	※	▲
⑤防災訓練職員派遣		指標なし	-	-	32/17	職員派遣回数	◎
新型コロナウイルスによる感染拡大が落ち着いたこともあり、今まで新型コロナウイルスの感染拡大の影響で活動を休止していた団体からの申し出が1件あった。 趣味を通しての生きがいづくり、ボランティア活動に繋がる事業、障がい者理解に関する講座など多岐にわたり行われた。 関係者等へ事業周知を行い、開催内容の意義を伝えていたが、集合開催には以前のようにはまだ戻らず、ここ数年の低迷から脱することができていない。 受講生を公募し、応募のあった市民を対象に第3期の養成講座を開講した。第1期・第2期市民学芸員もオブザーバー参加し、メカイに関する企画を立案し発表した。受講者のうち9名が修了し、第3期市民学芸員となった。 令和5年度は新型コロナウイルス感染症流行前と同水準まで防災訓練の実施数が回復した。それに伴い、職員の派遣数も向上した。							
今後の方向性 近年は所管課へ直接市民から依頼される傾向となっている。チャネルとしては当面残すが、必要性がある事業であるか、また、事業の在り方も詰め検討していく。 今後も市民団体への支援を行いながら、市民への多様な分野の学びの提供を行っていく。 予防的な内容であることから、地域組織・団体、学校など数十名単位での実施・開催が効果的であり、今後も啓発に加え、事業PRを強化し実施していく。 市民学芸員の活動期間は原則3年間(第1期生は1年間延長)としているため、令和6年度は第1期生の卒業を予定する一方で、第4期生の育成を予定している。若年層の取り込みが課題である。 能登半島地震で防災に関する関心が高まっていることや、昨年度、防災安全課で開発した持出王(非常用持ち出し袋作成ゲーム)の一定の需要があることから職員派遣回数は増えることを見込んでいる。							

※養成講座から市民学芸員になった人数

個別施策⑩ 多世代交流の場づくりの推進							
アクティビティ(事業概要)	アウトプット			初期アウトカム			実績と考察
	関連事業	【令和5年度/令和4年度】	単位	進捗	【令和5年度/令和4年度】	単位	
①多摩市立市民活動・交流センター		310/325	登録団体数	→	127,320/113,758	参加者数	◎
②コミュニティセンター・コミュニティ会館		11/11 3,698/3,393	施設数 開館日数 (10館合計)	→ →	26/19 3,036/2,721	事業数 事業参加者数	◎ ◎
③多摩市版地域包括ケアシステム		指標なし	-	-	2/1	※	◎
④公民館(永山)		11,121/11,121 337/337	施設数 開館日数	→ →	77,137/74,001	来館者数	→
⑤公民館(関戸)		11,063/10,121 339/338	施設数 開館日数	→ →	65,894/57,456	来館者数	◎
⑥学校跡地の市民開放		2/2 359/359	施設数 開館日数	→ →	21,841/20,491	来館者数 (利用者数)	→
⑦青少年協議会地区委員会の活動		200/162	活動数	◎	29,759/20,564	参加者数	◎
⑧永山フェスティバル		1/1	事業数	→	54,741/12,293	参加者数	◎
⑨学校開放		26/26	施設数	→	311,300/275,765	使用者延べ人数	◎
登録団体数は集計方法の変更により微減となっている。利用者数は施設の認知度の増加、利用率の増加に伴い増えている。また、指定管理者による自主事業の実施による参加者の増加も貢献している。 新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類相当になったことから、徐々に児童館との連携事業や子どもたちを対象とした世代間交流事業の実施が増えており、コミュニティセンター及びコミュニティ会館が持つ多世代が交流する場としての機能を回復しつつある。 代表者会議は7月に1回目を開催し、昨年度に引き続き重層的支援体制整備事業実施方針の検討を行った。2月に2回目を開催し重層的支援体制整備事業実施方針策定の報告、その他には各会議の開催状況の報告をした。アウトカムの2回は代表者会議の開催回数である。 「つどう」「まなぶ」「つながる」きかけの場として、地域の拠点施設として多岐にわたる市民活動を支援するとともに、交流の促進、情報の発信、地域課題の解決にむけた講座や地域振興に寄与する催しなど、さまざまな事業を実施することができた。 昨年度と比べて、イベントや雪の影響により、グラウンドが利用できない日があったが、利用団体が定着し、試合などでの利用も増えたため、利用者数が増加した。 新型コロナウイルス感染症の影響により中止・縮小していた活動を徐々に再開していった結果、令和2年度(112回、6,736人)から令和4年度までを上回る活動数、参加者数を得ることができた。 永山駅周辺の活性化と地域住民、市民団体等の交流促進や施設間同士の連携、元気な街づくりを目的に開催した。 新型コロナウイルス感染症の位置づけが「新型インフルエンザ等感染症(いわゆる2類相当)」から「5類感染症」に変わったことで、利用者心理にも影響があったと思われる、昨年度より利用人数が増加したものと考ええる。							
恒例で開催しているキタカイフェスタを中心に、世代間を超えた交流が図られるような様々な機会を活用していく。また、ショーウィンドウ、回廊等へ作成作品等を啓示するなども行っている。 今後はコロナ前の状態を目標とし、運営協議会と協力の上でコミュニティセンターの利用者数及び事業参加数が増加する見込みである。 引き続き、多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会設置要綱に沿って、エリア別情報交換会、随時の事例検討会を行う。そこで得られた各地域の情報課題を共有する代表者会議を年1回程度行い、地域の課題について取り組んでいく。また、事例の発生に応じて事例検討会の実施を行う。 新型コロナ感染症の影響による利用者の減少は回復傾向にあるものの、以前の利用実績にまでは戻っていない状況である。様々な年齢層に来館いただけるよう、利用しやすい施設として、学びや活動の場を提供していくが、来館者数の増加に結び付けることは難しいと感じている。 暫定活用の施設であるため、今後も利用できる施設が減っていくことが想定されるため「下がる」とした。学校跡地に替わる他の施設活用を検討していく。 地区委員会の委員の高齢化により、これまでと同等の活動が困難になってきている地区委員会もある。役員の人財確保や、活動のあり方の見直しをしていくことが必要である。 若者や現役世代を中心に市民活動が活発になってきている印象がある。今後も引き続きスポーツ活動などを通じて、市民の社会教育活動を支援するため、継続して活動場所の提供を行う。							

※会議開催数(多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会)

※指標の推移	◎	→	▲	◎→▲		◎	→	▲	◎→▲
アウトプット	2	13	1	1	初期アウトカム	11	2	2	9

推進項目5 指標の推移			
アウトプット	↑	初期アウトカム	↑

◎→▲>0の場合は「↑」
 ◎→▲=0の場合は「→」
 ◎→▲<0の場合は「↓」

～ 令和5年度 内部評価結果 ～

推進項目6「ボランティア・市民活動」

市民主体のボランティア活動や市民活動へのサポートを行うとともに、ボランティア活動などに参加したくなる仕組みづくりを進めます。

10%以上の上昇は「◎」、10%未満の上昇及び下降は「→」、10%以上の下降は「▲」で表記

↑:上がる、→:現状維持、↓:下がる

個別施策⑪ ボランティアセンターの充実

アクティビティ（事業概要）	アウトプット			初期アウトカム			実績と考察	今後の方向性	今後の方向性と課題について
関連事業	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗			
①多摩ボランティア・市民活動支援センター	296／293	開館日数	→	9,640／8,358	来館者数（利用者数）	◎	新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、施設などもボランティアの受け入れを再開し、活動者のマッチングも118件（昨年度100件）となった。夏のボランティア体験においては対面形式で実施し、80施設・団体、101プログラムに対して209人の参加があった。また、ボランティアパークを開催し、こどもから大人まで約800人の参加があり、ボランティアパークを通じて、ボラセンの周知やボランティア活動に関心をもってもらう機会につながった。	→	運営委員会内に新たな専門委員会を設置して、教育関係者など各分野の専門機関に参画してもらい、SNS、子ども向け広報紙、福祉体験学習のメニュー化、市内大学での出張相談など子どもや若者がボランティア・市民活動に関心をもってもらうための仕組みを検討し、実施していく。昨年度同様に夏のボランティア体験やボランティアパーク、ボランティア登録団体連絡会共催のボランティア見本市を実施し、多くの市民にボランティア活動に触れる機会を提供し、活動へのコーディネートを行う。

個別施策⑫ 市民活動やボランティア活動に気軽に参加できる仕組みづくり

アクティビティ（事業概要）	アウトプット			初期アウトカム			実績と考察	今後の方向性	今後の方向性と課題について
関連事業	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗			
①援農ボランティア	6／9	参加者数	▲	6／4	修了者数	◎	援農ボランティアの数は増加しているが、活用される機会が少なくなってきた。令和5年度の参加者は基本的な知識と技術を身につけ、全員が講習を修了することができた。	その他	援農ボランティアの参加者数は縮小傾向にある。今後も多摩市内の農業者に対して援農ボランティアの活用についてのPRを続けるが、農家の高齢化に伴う人手不足や業務拡大の支援策の一環として援農ボランティアのあり方や継続について検討していきたい。
②にゃんともTAMAるボランティアポイント（介護予防ボランティアポイント）	指標なし	-	-	558／514 104／77	登録者数、ポイント活用申請件数	→ ◎	コロナの影響でボランティアの受け入れを休止していた施設が受け入れを再開したことで、ポイント活用申請件数が前年度に比べて増加した。	↗	高齢化率上昇中での、社会参加と生きがいづくりによる介護予防を推進していくため、受入施設の拡大や多様な活動メニューとなるよう検討していく。
③多摩ボランティア・市民活動支援センター	296／293	開館日数	→	9,640／8,358	来館者数（利用者数）	◎	新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、施設などもボランティアの受け入れを再開し、活動者のマッチングも118件（昨年度100件）となった。夏のボランティア体験においては対面形式で実施し、80施設・団体、101プログラムに対して209人の参加があった。また、ボランティアパークを開催し、こどもから大人まで約800人の参加があり、ボランティアパークを通じて、ボラセンの周知やボランティア活動に関心をもってもらう機会につながった。	→	運営委員会内に新たな専門委員会を設置して、教育関係者など各分野の専門機関に参画してもらい、SNS、子ども向け広報紙、福祉体験学習のメニュー化、市内大学での出張相談など子どもや若者がボランティア・市民活動に関心をもってもらうための仕組みを検討し、実施していく。昨年度同様に夏のボランティア体験やボランティアパーク、ボランティア登録団体連絡会共催のボランティア見本市を実施し、多くの市民にボランティア活動に触れる機会を提供し、活動へのコーディネートを行う。
④生涯学習市民バンク	指標なし	-	-	0／2	登録者数	▲	令和5年度は問合せが数件あり、申請の手続きを案内したが、申請書の提出までに至らなかった。	→	文化・生涯学習推進課では登録受付のみ行っており、実際にどのように活用されているのかは把握できていない。今後、この事業をどのように継続していくのか、また、中止にするのか等を検討していく。
⑤多摩市立市民活動・交流センター	310／325	登録団体数	→	127,320／113,758	利用者数	◎	登録団体数は集計方法の変更により微減となっている。利用者数は施設の認知度の増加、利用率の増加に伴い増えている。また、指定管理者による自主事業の実施による参加者の増加も貢献している。	→	気軽に来るきっかけとなるキタカイカフェ等で、活用する団体の様子を様々なタイミングで見ることができる。また、1階の行き来が多い場所に掲示板等が設置され、活動紹介等が図られている。
⑥多摩市版地域包括ケアシステム	指標なし	-	-	2／1	※	◎	代表者会議は7月に1回目を開催し、昨年度に引き続き重層的支援体制整備事業実施方針の検討を行った。2月に2回目を開催し重層的支援体制整備事業実施方針策定の報告、その他には各会議の開催状況の報告をした。アウトカムの2回は代表者会議の開催回数である。	↗	引き続き、多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会設置要綱に沿って、エリア別情報交換会、随時の事例検討会を行う。そこで得られた各地域の情報課題を共有する代表者会議を年1回程度行い、地域の課題について取り組んでいく。また、事例の発生に応じて事例検討会の実施を行う。
⑦公園・道路のアダプト制度	127／120	事業数	→	3,028／2,955	参加者数	→	公園、道路合わせて7団体が新規加入しており、HPやたま広報で効果的に制度をPRできた。	→	毎年制度に加える団体は増加しているため、引き続き制度の普及・啓発を促進していく。
⑧グリーンボランティア活動	14／14	事業数（活動数）	→	2,972／3,095	参加者数	→	活動に大きな変化は見られない。新たな団体が増えそうな傾向にあることは好ましい状況といえる。一方、高齢化が確実に進行しているため、世代交代とまでいかないものの、継続性という面に人材の確保に注力していくことが必要である。	→	今後も継続していく予定だが、GLC（多摩市立グリーンライフセンター）の運営体制によっては、見直しがかかることもある。

※会議開催数（多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会）

※指標の推移	◎	→	▲	◎→▲		◎	→	▲	◎→▲
アウトプット	0	5	1	-1	初期アウトカム	6	3	1	5

推進項目6 指標の推移			
アウトプット	↓	初期アウトカム	↑

◎→▲>0の場合は「↑」
◎→▲=0の場合は「→」
◎→▲<0の場合は「↓」

～ 令和5年度 内部評価結果 ～

推進項目7「大学・社会教育施設との連携」

大学や社会教育施設等との連携により、地域課題の解決など、多様なニーズに対応した気軽に学べる機会づくりと提供を目指します。

10%以上の上昇は「◎」、10%未満の上昇及び下降は「→」、10%以上の下降は「▲」で表記
↗:上がる、→:現状維持、↘:下がる

個別施策⑬ 市内大学とのネットワークの構築

アクティビティ（事業概要）		アウトプット		初期アウトカム			実績と考察	今後の方向性	今後の方向性と課題について
関連事業		【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	【令和5年度／令和4年度】	単位			
① 健幸まちづくりシンポジウム		2／1	開催回数	◎	132／72	参加者数	◎	→	引き続き、時宜になかったテーマ選定を行い、市民の様々な興味関心を入り口として健幸まちづくりへの参画を促すシンポジウムを開催していく。
② 大学連携事業		91／66	事業数	◎	指標なし	-	-	↗	実績は増加傾向で大学連携のニーズが高いことがわかるが、各大学の事務負担も大きいので、各所管部署の事業ニーズと大学の意向を確認したうえで、マッチングに向けて調整する必要がある。

個別施策⑭ 社会教育施設と大学機関の連携

アクティビティ（事業概要）		アウトプット		初期アウトカム			実績と考察	今後の方向性	今後の方向性と課題について
関連事業		【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	【令和5年度／令和4年度】	単位			
① 関戸地球大学院		7／6	事業数	◎	279／217	参加者数	◎	→	引き続き、市内6大学との関係を維持しつつ、市民の学びの機会を継続的に提供していく。また、各大学との共催事業でもあることから、大学間の交流促進など、各大学へのメリットにもつながる仕掛け等も検討していく。

※指標の推移	◎	→	▲	◎→▲		◎	→	▲	◎→▲
アウトプット	3	0	0	3	初期アウトカム	2	0	0	2

推進項目7 指標の推移			
アウトプット	↑	初期アウトカム	↑

◎→▲>0の場合は「↑」
◎→▲=0の場合は「→」
◎→▲<0の場合は「↓」

～ 令和5年度 内部評価結果 ～

推進項目8 「誰もが学べる環境づくり」

ライフスタイル、障害の有無、国籍、性別、経済状況などに関わらず、誰もが参加できる学習の環境・機会づくりを関係施設や団体、関係部署等と連携を図りながら推進します。

10%以上の上昇は「◎」、10%未満の上昇及び下降は「→」、10%以上の下降は「▲」で表記

▲：上がる、→：現状維持、▼：下がる

個別施策⑮ オンライン・通信教育での学習サポート

アクティビティ（事業概要） 関連事業	アウトプット 【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	初期アウトカム 【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	実績と考察	今後の 方向性	今後の方向性と課題について
①YouTube多摩市公式チャンネル	161／118	投稿動画数	◎	135,356／227,925 4,324／3,934	視聴回数、チャンネル登録者数	▲ →	職員向けの研修の動画などの割合が多くなっており、広く生活者に見てもらい性質の動画の公開が少ないことが、視聴回数の減少につながっているのではと予想している。	→	引き続き、動画を活用した情報発信の推進に取り組むため、現状維持とした。課題として、投稿する動画のクオリティの差や、編集の経験と技術不足により制作に必要な以上に時間がかかっていることが挙げられる。
②防災に関するDVD等の無料貸出	78／72	DVD本数	→	14／13	貸出数	→	DVD等の無料貸出数は昨年と同水準であった。また、貸出先も大きな変化はなく、学童クラブを中心とした毎年貸出を行っている組織への貸出であったため、防災安全課前に展示している貸出用DVD等が来庁者に目立つようなレイアウトに変更した。	→	訓練内容の相談があった際にDVD等の無料貸出の提案を行う（特に、新しく自主防災組織のリーダーになった方）。また、DVD内容の充実を図る。
③日本語教室	1／1	事業数	→	2,529／2,754	参加者数	→	新型コロナウイルス感染症拡大への対策として、オンラインによる授業を一時的に導入したが、コロナウイルスが落ち着き、委託先である多摩市国際交流センターにおいて、日本語教室の授業形態の見直しを検討され、オンライン授業の参加者数が大幅に減った。	▼	多摩市国際交流センターにおいて、令和5年度からは原則、対面での参加とする旨のガイドラインが定められ、今後オンラインでの参加者数は減少する見込みである。

個別施策⑯ シチズンシップ学習の拡充

アクティビティ（事業概要） 関連事業	アウトプット 【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	初期アウトカム 【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	実績と考察	今後の 方向性	今後の方向性と課題について
①国際交流事業（国際理解講座等）	4／3	事業数	◎	128／104	参加者数	◎	前年度と比べて1講座増えたことに伴い、参加者数も増加した。	→	多文化共生社会の実現に向けて、外国人に対する支援等はもちろん、日本人が異なる文化や生活習慣などについて理解を深める国際理解講座も必要不可欠であり、今後も継続していく必要がある。
②平和・人権課及びTAMA女性センターが実施する関連講座・事業	26／24	事業数	→	3,158／6,865	参加者数	▲	昨年度の参加者数の増加は人権週間行事を市制50周年記念事業として実施したことによる特例的なもので、今年度は通常の参加者数を維持できたと考え、女性センター実施事業は、昨年度より参加人数が増えたが、周知方法を工夫したこと（類似イベントでチラシ配付やミニコミ誌の活用等）などが要因と考える。	→	事業数・参加者数としては現状維持とする。今後も引き続き他課との連携を積極的に進め、社会情勢やトレンドからテーマを選定して、より多くの世代に関心と理解が広がる啓発事業を企画・実施する。
③障がい者青年教室	1／1	事業数	→	210／142	参加者数	◎	主に知的障がいを持つ青年たちを対象に、コロナ禍であったが、人数や時間を縮小するなど工夫し、年9回青年教室を開催した。青年たちが楽しみにしている創作活動での作品は、「多摩市みんなの美術作品展」にも展示参加し、多くの方に活動を知っていただく機会となった。	→	事業の実施には、ボランティアの支援が不可欠となるが、参加人数が安定していないことなどから、新たな事業展開ができていない。また、継続して参加している青年が大半であることから、新たに参加を希望する青年を受け入れることができていない。
④子ども被爆地派遣事業（報告会）	1／1	事業数	→	96／65	参加者数	◎	参加者数が増えた要因として、成果報告会を平和展最終日に開催したこと、平和事業としての一体感や多様な世代の来場などの相乗効果が生まれたためと考える。	→	引き続き、平和展の開催期間中に成果報告会を実施し、平和事業として一体感のある場を作ることにより、参加者とともに平和について考える機会とする。

個別施策⑰ 様々な状況に応じた学習・生活のサポート

アクティビティ（事業概要） 関連事業	アウトプット 【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	初期アウトカム 【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	実績と考察	今後の 方向性	今後の方向性と課題について
①就労支援事業（多摩市就労ガイドブックの作成等）	500／700	発行部数	▲	247／442	受取数	▲	例年400部前後は受取数があったが、新型コロナウイルスが5類感染症になり、就職活動への影響も若干回復傾向にあったこともあり、受取数が減ったと見られる。	→	新型コロナウイルスの影響がまったくなくなったとは言えず、相談先を探すツールとして需要もあることから、現状維持とする。発行部数については把握しているが、実際にどれほど就労支援につながっているかの効果検証が難しい。
②日本語教室・外国語セミナー	2／2	事業数	→	2,618／2,861	参加者数	→	令和5年度はコロナウイルスが落ち着き、クラス運営が通常に戻ったが、生徒の帰国などで生徒数が若干減少した。	↗	多文化共生社会の実現に向けて、日本語教室等の外国人支援や国際交流・国際理解の促進に繋がる外国語講座等の事業の実施は継続していく必要があり、在住外国人の増加に伴って、事業のニーズ等も拡大していく見込みである。
③障がい者スポーツ体験教室	8／10	実施回数	▲	127／76	参加者数	◎	新型コロナウイルスの収束に伴い、参加者数は増加傾向にある。	→	共催者とも連携し、周知に力をいれながら1回あたりの参加者増加を目指していく。
④多摩市国際交流センター	4／4	事業数	→	4,379／3,816	市民参加者数	◎	令和5年度は多摩市国際交流センター設立30周年を迎えたことから、記念事業やイベントが行われたため、前年度実績より増えた。	↗	在住外国人数の増加等に伴い、多摩市の国際交流活動の拠点の場となる多摩市国際交流センターの役割は徐々に拡大してきている。多文化共生社会の実現に向け、市と連携して、在住外国人への支援や市内の国際交流・国際理解の促進に取り組んでいる多摩市国際交流センターの重要性は今後も更に高くなることを見込まれている。
⑤出前講座	1／1	講座数	→	18／7	参加者数	◎	新型コロナウイルスによる感染拡大が落ち着いてきたこともあり、今まで新型コロナウイルスの影響で活動を自粛していた団体からの申し出が1件あった。	→	近年は所管課へ直接市民から依頼される傾向となっている。チャンネルとしては当面残すが、必要性がある事業であるが、また、事業の在り方も含め検討していく。
⑥「ハートフルオフィス」事業	1／1	事業数	→	1／0	就労実績	◎	ジョブコーチ支援（障がい者が会計年度任用職員として業務を遂行するにあたっての支援、就職に向けた準備支援業務等）により、任用期間満了となった会計年度任用職員1名が一般企業等へ就職した。	その他	ハートフルオフィスの職員は任用期間が原則3年間であることから、任用期間内での一般企業等への就職を目指す。今後も個々の障害特性に合わせた就労支援を行っていく必要がある。

※指標の推移	◎	→	▲	◎→▲		◎	→	▲	◎→▲
アウトプット	2	9	2	0	初期アウトカム	7	4	3	4

推進項目8 指標の推移			
アウトプット	→	初期アウトカム	↑

◎→▲>0の場合は「↑」
◎→▲=0の場合は「→」
◎→▲<0の場合は「↓」

～ 令和5年度 内部評価結果 ～

推進項目9「市民協働の機会づくり」

地域の様々な活動や人材等と連携し、地域の活動や多世代と関わり、学べる機会づくりを進めます。

10%以上の上昇は「◎」、10%未満の上昇及び下降は「→」、10%以上の下降は「▲」で表記

↗:上がる、→:現状維持、↘:下がる

個別施策⑱ 市民・民間・行政が一体となった事業等の実施

アクティビティ（事業概要）	アウトプット			初期アウトカム			今後の方向性	今後の方向性と課題について
関連事業	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗		
①永山フェスティバル	1／1	事業数	→	54,741／12,293	参加者数	◎	→	引き続き、地域（永山駅周辺）の活性化や交流促進などを目的に実施していく。
②グリーンボランティア活動	14／14	事業数（活動数）	→	2,972／3,095	参加者数	→	→	今後も継続していく予定だが、GLC（多摩市立グリーンライブセンター）の運営体制によっては、見直しがかかることもある。
③多摩センター地区四季折々のイベント	5／5	事業数 （イベント数）	→	5,618,000／4,686,000	集客数	◎	→	市内外の来街者増加を図るため、従来のイベント内容に加え必要に応じて変化や新しい要素を追加しながら、持続的に活性化に取り組む必要がある。
④聖蹟桜ヶ丘地区四季折々のイベント	5／3	事業数 （イベント数）	◎	22,379／2,939	集客数	◎	→	地域事業としての定着を図るため継続的にイベントを実施するとともに、市内外の来街者増加を図るため、必要に応じて変化や新しい要素を追加していく。更なる活性化に向け、新たなエリアを含め、まちの回遊性を意識しながら進めていく。また、せいせきワマチについては、エリアマネジメント法人と連携しながら、新たなイベント事業者の掘り起こしに取り組む。
⑤商店街イベント	14／13	事業数 （イベント数）	→	186,350／638,115	集客数	▲	→	既存イベントについては継続的に実施できるよう支援していき、事業を実施していない商店会による新規事業実施に向けてヒアリング及びサポートをしていく。
⑥健康まちづくりシンポジウム	2／1	開催回数	◎	132／72	参加者数	◎	→	引き続き、時宜にかなったテーマ選定を行い、市民の様々な興味関心を生き口として健康まちづくりへの参画を促すシンポジウムを開催していく。
⑦パルテノン多摩市民団体等活動支援事業	10／0	支援団体数	◎	7,053／0	支援事業担当者 ・入場者数	◎	→	公平で、新たな団体にも応募できる新しいしくみとしたため、制度の定着と普及に努める。

個別施策⑱ 各種イベント等の企画・運営への市民参画の推進

アクティビティ(事業概要)	アウトプット			初期アウトカム			今後の方向性	今後の方向性と課題について
関連事業	【令和5年度/令和4年度】	単位	進捗	【令和5年度/令和4年度】	単位	進捗		
①多摩センター地区四季折々のイベント	5/5	事業数 (イベント数)	→	5,618,000/4,696,000	集客数	→		市内外の来街者増加を図るため、従来のイベント内容に加え必要に応じて変化や新しい要素を追加しながら、持続的に活性化に取り組む必要がある。
②多摩市民文化祭	1/1	事業数	→	12,243/11,407 27/26	集客数 参加団体数	→ →		様々な媒体を活用して、市民文化祭の周知を図り、より多くの市民が参加し、ともに作り上げ、市内の文化・芸術の発展と市民の交流の推進に取り組んでいくため、参加団体の世代交代が課題と捉えており、他部署企画の事業とも連携を図りつつ、裾野の拡大を図っていく。
③聖蹟桜ヶ丘地区四季折々のイベント	5/3	事業数 (イベント数)	◎	22,379/2,939	集客数	◎		地域事業としての定着を図るため継続的にイベントを実施するとともに、市内外の来街者増加を図るため、必要に応じて変化や新しい要素を追加していく。更なる活性化に向け、新たなエリアを含め、まちの回遊性を意識しながら進めていく。また、せいせきカワチについては、エリアマネジメント法人と連携しながら、新たなイベント事業者の掘り起こしに取り組む。
④多摩エコ・フェスタ	1/1	事業数	→	1,170/647	集客数	◎		近年、消費生活フォーラムと合同で開催してきたが、会場を以前のバルテノン多摩に戻すが、消費生活フォーラムとの合同開催を継続することにより、来場者を前回より500人以上増やすことができた。
⑤バルテノン多摩の野外事業 (バルTEAMAフェスin多摩センター)	0/0	事業数	→	0/0	集客数	→	その他	新たな事業として再構築する。今後も屋外でのイベントは、主催のみならず共催、後援も含め、市民協働の一つとして実施に努めていく。

※指標の推移									
	◎	→	▲	◎－▲		◎	→	▲	◎－▲
アウトプット	4	8	0	4	初期アウトカム	7	5	1	6

推進項目9 指標の推移			
アウトプット	↑	初期アウトカム	↑

- ◎-▲>0の場合は「↑」
- ◎-▲=0の場合は「→」
- ◎-▲<0の場合は「↓」

～ 令和5年度 内部評価結果 ～

推進項目10「連携・協働による子どもの成長への支援」
市民や地域と連携・協働しながら、子どもの成長や子育てをサポートします。

10%以上の上昇は「◎」、10%未満の上昇及び下降は「→」、10%以上の下降は「▲」で表記

↗:上がる、→:現状維持、↘:下がる

個別施策㉔ 子育てに関わる者へのサポートの充実								
アクティビティ（事業概要）	アウトプット			初期アウトカム			実績と考察	今後の方向性
関連事業	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗		
①地域子育て支援拠点事業	10／10	実施箇所数	→	134,791／129,946	利用者数	→	ハルデノン多摩にある「こどもひろばOLIVE」については、令和4年度に引き続き、多くの利用者があり、全体の利用者数を押し上げている。	→
②子ども・子育てサービスガイド	3,000／3,000	配布部数	→	3,000／3,000	受取数	→	今年度も基準値とおりの配布部数を達成することができた。これから子育てを始める方に対しては母子健康手帳（親子健康手帳）交付時に配布を行うとともに、既に子育てをしている方に対しては、本庁及び各出張所並びに地域子育て支援拠点等で子ども・子育てサービスガイドの配布を行うことで、多摩市における最新の子育てサービスの周知を図った。	→
③利用者支援事業（子育てマネージャーの配置）	10／10	配置箇所数	→	1,225／1,224	相談件数	→	市内10か所の地域子育て支援拠点全てで、専任の子育てマネージャーにより利用者新事業を実施した。各拠点での相談件数の増減はあるものの、全体を通して横ばいとなった。	→
④子ども家庭支援センター等の子育て世代向け講座・事業	16／12	事業数	◎	639／384	参加者数	◎	様々な種類の事業を展開することで、子育て支援者のスキルアップにつながったほか、コロナ禍も明け、対面での交流も次第に回復してきている。	→
⑤放課後子ども教室	15／14	事業数	→	20,031／10,616	利用者数	◎	令和2年度より新型コロナウイルスの影響で規模を縮小して実施していた学校が大半だったが、実施日数がコロナ以前の水準まで増加した。また、令和5年10月より連光寺、貝取小学校の2校で放課後子ども教室の試行実施を委託により開始し、実施日数が週5日に拡充されたため、当該学校の利用者数が令和4年度以前に比べ大幅に増加した。	↗
⑥水辺の楽校	18／16	事業数	◎	355／345	参加者数	→	新型コロナウイルス感染症の状況も落ち着き、近年、実施できなかった事業についても行うことができた。また、TAMAサステイナブル・アワードにおいて、これまでの活動が評価され、「生物多様性保全部門」を受賞した。	→
⑦小学校PTA連絡協議会・中学校PTA連合会	25／25	加入団体数	→	指標なし	-	-	小学校16校、中学校9校が加入している市立小中PTAの2団体へ活動支援をするともに団体の事業に要する費用を補助した。	→

個別施策㉕ 学校と地域との連携強化								
アクティビティ（事業概要）	アウトプット			初期アウトカム			実績と考察	今後の方向性
関連事業	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗		
①放課後子ども教室	15／14	事業数	→	20,031／10,616	利用者数	◎	令和2年度より新型コロナウイルスの影響で規模を縮小して実施していた学校が大半だったが、実施日数がコロナ以前の水準まで増加した。また、令和5年10月より連光寺、貝取小学校の2校で放課後子ども教室の試行実施を委託により開始し、実施日数が週5日に拡充されたため、当該学校の利用者数が令和4年度以前に比べ大幅に増加した。	↗
②地域学校協働活動	26／26	実施校数	→	6,276／5,309	ボランティア人数	◎	新型コロナの感染状況に配慮しつつ、コロナ前の状態への回復を目指し、各校における地域学校協働活動を展開した。ボランティア延べ人数は、コロナ前のR1実績（5,418人）を超えるまで回復した。	→
③コミュニティ・スクール	26／26	導入校数	→	指標なし	-	-	令和4年度に、市内小中学校の全校が、「コミュニティ・スクール」へ移行した。	→
④地域子育て支援拠点事業	10／10	実施箇所数	→	134,791／129,946	利用者数	→	ハルデノン多摩にある「こどもひろばOLIVE」については、令和4年度に引き続き、多くの利用者があり、全体の利用者数を押し上げている。	→
⑤子ども家庭支援センター等の子育て世代向け講座・事業	16／12	事業数	◎	639／384	参加者数	◎	様々な種類の事業を展開することで、子育て支援者のスキルアップにつながったほか、コロナ禍も明け、対面での交流も次第に回復してきている。	→
⑥利用者支援事業（子育てマネージャーの配置）	10／10	配置箇所数	→	1,225／1,224	相談件数	→	市内10か所の地域子育て支援拠点全てで、専任の子育てマネージャーにより利用者新事業を実施した。各拠点での相談件数の増減はあるものの、全体を通して横ばいとなった。	→

※指標の推移

	◎	→	▲	◎→▲		◎	→	▲	◎→▲
アウトプット	3	10	0	3	初期アウトカム	5	6	0	5

推進項目10 指標の推移

アウトプット	↑	初期アウトカム	↑
--------	---	---------	---

◎→▲>0の場合は「↑」
◎→▲=0の場合は「→」
◎→▲<0の場合は「↓」

～ 令和5年度 内部評価結果 ～

推進項目11 「持続可能で元気な地域づくり」

市民や企業などと連携し、持続可能で元気な地域としての、多摩市らしさや多摩市の良さを実感できる学びの輪を広げながら、誰もが輝けるまちをつくります。

10%以上の上昇は「◎」、10%未満の上昇及び下降は「→」、10%以上の下降は「▲」で表記
▲:上がる、→:現状維持、↓:下がる

個別施策② 健康まちづくりの推進									
アクティビティ（事業概要）		アウトプット		初期アウトカム			実績と考察	今後の方向性	今後の方向性と課題について
関連事業		【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	【令和5年度／令和4年度】	単位			
①快汗スポーツDAY		32／36	事業数 (実施種目数)	▲	856／1,260	参加者数	▲	→	当日は雨天となり一部屋外事業が中止となったため、参加者数・事業数共に減少した。
②多摩市に虹をかけよう大作戦		7／7	事業数	→	指標なし	-	-	その他	中央図書館のリニューアルや児童館50周年など、7つのプロジェクトを設定した。
③多摩市民文化祭		1／1	事業数	→	12,243／11,407 27／26	集客数 参加団体数	→ →	→	令和4年度を上回る多くの市民の参加・来場により、団体間や市民との交流親睦が図られた。市民文化祭に関する会議や委員会を重ね、説明会や広報活動を積極的に行ったところ、令和5年度初参加の団体が子どもを中心とした舞台を創りあげた。
									定例事業として概ね現状維持で実施していく。今後も、社会的な情勢を踏まえつつ、参加者増につながるようなプログラムを検討し、実施していく。 健康まちづくり基本方針の改定や健康まちづくり推進室が企画課に統合されたことを踏まえ、7つのプロジェクトにこだわらず、健康まちづくりにおける取組や進捗確認の方法を検討する。 様々な媒体を活用して、市民文化祭の周知を図り、より多くの市民が参加し、ともに作り上げ、市内の文化・芸術の発展と市民の交流の推進に取り組んでいくため、参加団体の世代交代が課題と捉えており、他部署企画の事業とも連携を図りつつ、裾野の拡大を図っていく。

個別施策③ 企業連携による学習・教育の推進

個別施策③ 企業連携による学習・教育の推進									
アクティビティ（事業概要）		アウトプット		初期アウトカム			実績と考察	今後の方向性	今後の方向性と課題について
関連事業		【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	【令和5年度／令和4年度】	単位			
①子どもサッカー体験事業		1／1	事業数	→	91／86	参加者数	→	→	施設や、バスの定員の関係から、規模や参加人数については、現状維持を予定している。
②東京ヴェルディとの協働事業		13／13	事業数	→	3,120／2,625	参加者数	◎	→	令和5年度については参加者数が増加した。令和6年度についても、東京ヴェルディがJ1で活躍している状況を好機と捉え、同等、もしくはそれ以上の事業を実施していく。
③読売巨人軍との協働事業		4／3	事業数	◎	2,282／982	参加者数	◎	↗	令和6年度が、読売巨人軍90周年にあたることから、協働の取り組みを強化している。本年度については、協働の取り組みが拡大傾向にあるといえる。
④多摩市ESDコンソーシアム		1／1	事業数	→	14／20	参加者数	▲	→	様々な企業や関連団体と多摩市の進めるESDについて共有することができた。「地域と学校をつなぐ」取組や二酸化炭素やフードロス削減等の企業の取組を学校に伝えていくことで、子どもたちに寄与できるのではないかと、取組の提案等があった。
									企業や関連団体と緩やかな連携を図りながら、多摩市のESDが持続可能な教育活動となるよう推進する。

個別施策④ SDGsの取り組みの拡充

個別施策④ SDGsの取り組みの拡充									
アクティビティ（事業概要）		アウトプット		初期アウトカム			実績と考察	今後の方向性	今後の方向性と課題について
関連事業		【令和5年度／令和4年度】	単位	進捗	【令和5年度／令和4年度】	単位			
①水辺の楽校		18／16	事業数	◎	355／345	参加者数	→	→	新型コロナウイルス感染症の状況も落ち着き、近年、実施できなかった事業についても行うことができた。また、TAMAサスティナブル・アワードにおいて、これまでの活動が評価され、「生物多様性保全部門」を受賞した。
②多摩市ESDコンソーシアム		1／1	事業数	→	14／20	参加者数	▲	→	様々な企業や関連団体と多摩市の進めるESDについて共有することができた。「地域と学校をつなぐ」取組や二酸化炭素やフードロス削減等の企業の取組を学校に伝えていくことで、子どもたちに寄与できるのではないかと、取組の提案等があった。
③健康まちづくりシンポジウム		2／1	開催回数	◎	132／72	参加者数	◎	→	7月には、もしもの時にどのような医療やケアを望むのか前もって考え、親しい人たちに共有しておくことACP（アドバンス・ケア・プランニング）についてのシンポジウムを開催した。また、12月には、人権週間に合わせて、平和・人権課及び障害福祉課とともに多様性や障害者差別解消理解をテーマとしたパネルディスカッションとワークショップを開催した。それぞれ多くの方に参加いただいた。
									会員の高齢化が大きな問題となっており、「多摩川源流体験キャンプ」のような大掛かりな事業の実施は難しくなっているため、市内で小規模な観察会を多く実施するスタイルに変更する必要がある。
									企業や関連団体と緩やかな連携を図りながら、多摩市のESDが持続可能な教育活動となるよう推進する。
									引き続き、時宜に合ったテーマ選定を行い、市民の様々な興味関心を入り口として健康まちづくりへの参画を促すシンポジウムを開催していく。

※指標の推移	◎	→	▲	◎→▲		◎	→	▲	◎→▲
アウトプット	3	6	1	2	初期アウトカム	3	4	3	0

推進項目11 指標の推移			
アウトプット	↑	初期アウトカム	→
◎→▲>0の場合は「↑」 ◎→▲=0の場合は「→」 ◎→▲<0の場合は「↓」			